

パターンランゲージと QWAN あるいは孔子の仁

羽生田 栄一†

パターンランゲージは、街や住宅から大学キャンパスの教育の場や子供の遊び場、企業の基幹系や Web アプリケーション群まで、いわゆるシステムの構築をボトムアップかつ段階的・進行的に行っていく際に、過去のベストプラクティスの知恵の集積である個々のパターンを適宜選択し有機的に繋ぎ合わせて、関係者の思いと現地・現場・環境・制度の制約を摺り合せたデザインを導き出す方法論である。そこで目指されるのはコミュニティ・まち・建物から QWAN (Quality without a name) 無名の質が感じ取れるようにすることである。実は、2500 年前に生きた孔子も論語の中で最重要概念として「仁」を説いているが、この仁とはアニミズム的世界観において人と人、人と物との間に立ち現れる生き生きとした感覚であり「いのち」ともいえるものである。つまり、仁とはヒト・モノ含めたコミュニティ内のコミュニケーションの活性度を指す言葉であり、この観点を逆にパターンランゲージでコミュニティをデザインする際の指標として使える可能性がある。

Pattern language and QWAN or Confucian JIN

HANYUDA Eiiti†

Pattern language is a methodology which can apply to town/home/campus/playground/./enterprise IT systems design and constructions. Using pattern languages, we can build systems bottom-up gradually and evolutionally, assembling/selecting/matching of knowledge and best practices. In the process we coordinate and match the constraints of community/town/building/environment to produce appropriate designs. We are approaching to the QWAN(Quality without a name) through the process. In fact, Rongo: the book of Confucious says the most important property of human society is JIN. Jin is liveness or senses which appear between person-person or between person-thing in a certain situation. It means Jin is a state of maximal liveness of communications among the community. We discuss the possibility of using Jin degree as the adequacy index of community design when using pattern language approach.

1. はじめに

近年、パターンランゲージおよびそれをを用いたコミュニティベースの参加型デザインプロセスが注目されている。パターンランゲージ[1][2][4]の考え方や、そのライフサイクルを整理し分析するとそれはセンタリング[2][3]という言い方が相応しい自己組織的なプロセスである。対象やその置かれた環境に存在する制約(フォースのしがらみ)に対して有機的にパターン群を適用していくことで段階的に制約を解きほぐしていくプロセスである。

ここではそのプロセスが目指すものとしてのコミュニティのプロパティ、それを Alexander は QWAN (Quality Without A Name)「無名の質」と呼んだ[5]が、それを論語[6]において孔子の説いた「仁」という別な観点から意味づけることを試みる。

2. 言語としてのパターンランゲージ

パターンランゲージでは、システムのデザイン・構築をボトムアップかつ段階的・進行的に行っていく際に、過去のベストプラクティスの知恵の集積である個々のパターンを適宜選択し有機的に繋ぎ合わせて、関係者の思いと現地・現場・環境・制度の制約を摺り合せたデザインを導き出す。パターンランゲージと呼ばれるものは、パターンの集合であることに違いはないが、用いられる目的とコンテキストによっていくつかに分類できる。

2.1. オントロジーとしてのパターンランゲージ

いわゆるパターンランゲージは、ある問題領域＝ドメインにおいて何世代にもわたって獲得・理解・共有され普遍性をもったドメイン共通語彙(そのドメインのオントロジー)としてのパターン群である。オントロジーが単なる単語集と違うのは、各語彙＝パターンの概念構造と語彙どうしの意味連関が有機的に構成される点だ。

†Mamezou Co., Ltd.

2.2. プロジェクトランゲージの提案

一方、特定のコミュニティやシステム構築目的に合致したプロジェクト内の専用のパターン群が考えられ、これはプロジェクトランゲージと呼ぶことにする。プロジェクトランゲージは、関係するドメインの普遍的なパターンランゲージからプロジェクトに適合しそうなパターンを（その有機的なつながりも意識しつつ）集めてくるとともに、不足する概念あるいは独自のビジョンを表すためのパターンを仮説的に新たに関係者間で定義し、それらも含めてプロジェクトランゲージと呼ぶのである。

したがって、プロジェクトランゲージはプロジェクト関係者間で暫定的に設定したものであり、自分たちの問題理解やビジョン定義、デザインに使いながら有用性を評価し続け、適宜、含めるパターンや各パターンの記述をブラッシュアップしていくものである。

3. ローカル言語とグローバル言語

ローカル言語とグローバル言語という区別を導入すると、パターンランゲージの実際の運用と進化が議論ができる。ローカル言語とは特定の小さなコミュニティでのみ通用する言語であり、グローバル言語とは複数のコミュニティを巻き込んで通用する汎用性のある分野で獲得した言語である。

3.1. 言語としての進化プロセス

プロジェクトランゲージの中で新たに作られたパターン(群)が他のプロジェクトでも有用だという評価が定着してくれば、そのパターン(群)があるドメインの普遍的なパターンランゲージの要素として昇格することもある。この辺りのダイナミズムは、まさに自然言語の世界におけるローカルコミュニティと辞書に登録される語彙との関係、つまり言葉の生成・受容・流行・定着・消滅ともパラレルな関係といえるだろう。

3.2. 自然言語としてのパターンランゲージ

したがって、こういう言い方ができるだろう。個々の現場コミュニティで役立てるためのローカル言語としてのプロジェクトランゲージは、グローバル言語から基本語彙を調達し、足りない部分はローカルに独自に追加定義する。一方、グローバル言語としてのパターンランゲージは、そのドメインの時代・環境の大きなトレンドにしたがって新たな語彙をローカル言語である個々のプロジェクトランゲージから調達して進化し続けるのである。

4. 孔子の説く「仁」とは

2500年前に生きた孔子の言説をまとめた論語の中心概念「仁」はその意味が不明で多様な解釈がなされてきたが、小倉は[6]においてアニミズム正

確にはソウリズムにもとづく整合的な仁の定義を提出し、驚くべきことにそれは Alexander が[5]において無名の質 QWAN と呼ぶものと非常に近い。

仁の成立をそのコミュニティ内の「人-人、人-物」間のコミュニケーションにおけるライブ感つまり<生き生きとした命>の確立と定義している。

5. 論語とボトムアップ、礼と学習

孔子は観察を重視し現場での感覚をもとにコミュニティを立ち上げていくことの大切さを説いた。汎霊論のようにトップダウンに理や道を示すのではなく、人-人、人-物の関係性の中から生命がボトムアップに立ち現れるプロセスを重視し、そのための修行・学習を礼として謳った。あくまで人間がコミュニティを生み出すのだ。

グローバルな最新の技術やルールを美しく適用する才能にあふれた巧言令色の<小人>よりも、自分の目と手と頭で観察し、人や物と対話し、素朴で真摯に振る舞うことが「礼」の本質であり、<君子>たちがそうした学習プロセスを継続する[7]ことで、そのコミュニティに生き生きとした活力つまり「仁」が賦活される。

6. 今後の課題

仁の成立をそのコミュニティ内の「人-人、人-物」間のコミュニケーションにおけるライブ感の確立に見るのならば、それを指標化していくことも可能だろう。しかしそれはあくまで人間学的なものでなければならない。

参考文献

- [1] Masanari Motohashi, Hanyuda Eiiti et.al: From Pattern Language to Project Language, 2nd Asian Conference on Pattern Languages of Programs, 2011
- [2] 井庭崇,中埜博,羽生田栄一ほか: パターン・ランゲージ 創造的な未来をつくるための言語, 慶応義塾大学出版会, 2013
- [3] C. アレグザンダー: まちづくりの新しい理論, SD 選書, 鹿島出版会, 1989
- [4] Christopher Alexander, 平田 翰那(訳): パターン・ランゲージ—環境設計の手引, 鹿島出版会, 1989
- [5] Christopher Alexander, 平田 翰那(訳): 時を超えた建設の道, 鹿島出版, 1993
- [6] 小倉紀蔵, 新しい論語: ちくま新書, 筑摩書房, 2013
- [7] 安富歩, 生きるための論語: ちくま新書, 2012